

二学年 学年だより

No. 7 【12月号】

令和2年12月1日発行

「映画に行きたい！」

今の私の欲望である。生徒のみなさんも映画を見に行ってるだろうか？部活動に塾にと、忙しい日々を送っている高校生は、そんなお金も時間もたっぷりとはないから、実際は映画館に足を運ぶことは難しいのかもしれない。また、家にあるパソコンやタブレット端末でユーチューブにあがっている動画を見る方が楽しいと思っているかもしれない。私自身は映画館の大画面で映画を見るのが好きだ。大音量と大迫力のスクリーンに引き込まれる臨場感が圧倒的に心地よい。私の好きな映画の一つは『ターミネーター2』である。この映画を初めて映画館で観た後はなかなか現実の世界に戻って来られなかった。その映画の中に描かれた未来は（今でこそ少々違って見えるのだが）当時の私は衝撃を受けた。「本当にそんな未来が来たらどうするだろうか。」と自問自答していた。リアリティとフィクションの狭間で恐怖さえ感じていた。そんな時代から十数年経った現在はまっている映画がある。言わずと知れた、現在公開中の映画『劇場版 鬼滅の刃～無限列車編～』だ。この映画の中で描かれている世界は日本の大正時代。ターミネーターとは真逆の既に過ぎ去った時代に生きる人間と鬼の死闘を描いているダーク・ファンタジーである。今は大人だから、物語を一つのおとぎ話的に見ていられるし、実際にはないと心のどこかで分かっているから俯瞰できるけれど、この物語の中核を担う家族愛とか人間愛はもちろん、登場する悪役の鬼にも実は人間だった頃のものの哀しいストーリーがあることに心打たれるものがあり、気付けばコミック本が家の本棚に全巻揃っているし、放送されているアニメも全て一挙見してしまった。それから今回の映画に至ったというわけだ。既に知っている内容にも関わらず、つい感情移入してしまい、時間を忘れて鑑賞してしまった。映画を見た後は、もう一度、コミックを読み直し、某コンビニで売っているグッズに散財してしまった。映画は、現実逃避できる娯楽としては手頃である。忙しい日常の中に、少しだけだが、非日常の空間を手に入れられる最高のエンターテイメントだと思う。今年、中央高校に赴任してすぐに休校措置によって外出自粛を求められ、それからほとんど家庭と職場の往復だけで過ごしてもう半年以上経過した。そんな日々の中で楽しめるものは映画なのだ！G o T o トラベルとかG o T o イートとか言われているが、私の中ではG o T o ムービーなのである。一般大人料金は若干高いが、非日常の時間を手に入れる対価としては破格の安さだ。密を避けながら、隙間時間を有効に利用して映画に行こうと思っている。今、とても見に行きたい映画は『ドクター・デスの遺産』だ。 (206HR 担任)

「自分と他人」

私は、“人にどう見られているか”が気になりすぎて小中学生のとき不登校の経験があります。当時は過敏になりすぎていましたが、時が経つにつれて落ち着いていき、今では過去の経験をこうして皆さんに伝えられるまでになりました。なぜこのようなことを書いているかという、皆さんを見てみると私とは逆で“人にどう見られているか”をあまり気にしていない人がいると感じるからです。人の感じ方・考え方・捉え方はさまざまです。些細なことが気になる人もいれば、気にならない人もいます。自分の考えている当たり前なことが他の人にとってはありえないことかもしれません。

今後、AIなどの情報技術が進歩していくと考えられますが、人は一人では生きていきません。大切なことは自分とは違う価値観の人が多くいることを理解し、受け入れようとすることです。今一度自分の言動を客観視し、見直してみませんか。 (206HR 副担任)